

シンポジウム:ナビ派の現在

Les Nabis d'aujourd'hui

日時

2017年5月15日(月) 13:15～16:00



場所

一橋大学国立東キャンパス 国際研究館3階 大会議室

<http://www.hit-u.ac.jp/guide/campus/campus/index.html> (36番の建物)

事前申込不要・先着40名

19世紀末パリの芸術シーンにおいて、それまでの絵画常識を覆した「印象派」の画家たちが脚光を浴びていた一方で、他の画家たちもまた、更なる革新的な芸術を追い求めていました。ゴーガンの美学に感銘を受けた「ナビ派」も、そうした新たな芸術を模索した集団であったといえます。ボナール、ヴイヤール、ドニ、セリュジエ、ヴァロットンらを中心とするナビ派の作品に見られるのは、平坦な色彩の面を用いた装飾的な画面構成、そして日常の中に潜む内面性に踏み込むかのような親密さで、そうした個性的な作品は私たちに惹きつけてやみません。三菱一号館美術館での「美の預言者たち—ささやきとざわめき：オルセーのナビ派展」開催を受け、近年国際的に評価が高まりつつある「ナビ派の現在」を紐解いていきます。

東美緒(一橋大学大学院博士後期課程)
「ゴーガンとナビ派」



袴田紘代(国立西洋美術館研究員)
「ナビ派と浮世絵版画」

小泉順也(一橋大学大学院准教授)
「オルセー美術館におけるナビ派コレクション: 収蔵の経緯と傾向の分析」

主催 一橋大学博物館研究会

問い合わせ先 m.koizumi@r.hit-u.ac.jp 小泉順也
(一橋大学大学院言語社会研究科)

Orsay
Nabis